研究主題	「古典探究」における古典の世界と現代の社会とを結び付けて考えを深める指導 －自ら問いを立てて練り上げ、その解決に向けて学びを深化させる学習－

第２学年国語科（古典探究）学習指導案

指導月日　令和６年 10 月 15 日
所属校名　宮城県富谷高等学校
氏名　　大河原　愛香

１　単元名

作者の視点を通して描かれた人物像や作者の心情を捉え、考え方を広げたり深めたりする。

２　単元の目標

(1) 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。〔知識及び技能〕(1)イ
(2) 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力・判断力・表現力等〕Ａ(1)オ
(3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。「学びに向かう力、人間性等」

３　取り上げる言語活動と学習材

言語活動：古典作品を読み、調べて発表したり議論したりして、考えをレポートにまとめる活動。（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕Ａ(2)ア）
学習材：『蜻蛉日記』「うつろひたる菊」「泔坏の水」（第一学習社『高等学校　精選古典探究』）

４　単元観

本単元は、「古典探究」の「内容」のうち、〔知識及び技能〕(1)イ「古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深める」及び、〔思考力・判断力・表現力等〕「Ａ読むこと」(1)オ「古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりする」に基づいて設定した。生徒の初読の問いを起点に、言葉に着目させながら学習を深める指導を展開する。その上で、古典作品の内容について現代の社会と結び付け、生徒自身に「答え（解釈）が複数ある問い（創造的な問い）」を自ら設定させ、協働的な探究学習を通して深い学びの実現を図る。

取り上げる題材である『蜻蛉日記』は、平安時代中期、藤原道綱母によって記された我が国初の女流日記文学である。上巻、中巻、下巻の全三巻からなり、そこには自照性が強く表され、作者自身の内面が回想的かつ赤裸々に語られている。人間を内面から捉える小説的手法は、以後の女流日記文学に多大な影響をもたらし、また『源氏物語』成立の基盤ともなった。今回学習する「うつろひたる菊」は、『蜻蛉日記』上巻の前半に書かれた段落である。藤原道綱母が身分不相応の結婚に戸惑いながらも喜んでいたところで、兼家の浮気が発覚し、そのことによる作者の心理的な落差が巧みに表現されている。比較題材として『蜻蛉日記』「泔坏の水」を使い、「うつろひたる菊」から年月が経ってもなお続く作者と兼家との関係や、その関係がどのように変化したのかについて読み取らせる。それらの学習を通して、更に踏み込んで考えたいことや、湧いてきた疑問について生徒自身が問いを立て、その問いを「創造的な問い」として練り上げていく過程や解決に向かう過程で思考を深めさせる。そして、古典作品の内容を理解し、古典の世界と現代の社会とを結び付けて考えを広げたり深めさせたりすることができると考え、本単元を設定した。

５　生徒の実態［第２学年７組 38 名］

４月に実施したアンケートでは、古文の読解を苦手と感じる割合が 86%、日常生活と古典との結び付きを感じないと答えた生徒が 83%であった。基礎的な文法の知識と語彙力との不足に加え、古典の世界と現代の社会との結び付きを捉えられず、古典に対する関心がやや低いことが古典学習への大きな障壁になっていると考えられる。生徒は、これまでに、橘成季『古今著聞集』「小式部内侍が大江山の歌のこと」を通し、「Ａ読むこと」(1)ア「文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること」及び、イ「文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えること」を学習した。また、李白「独坐敬亭山」、王維「九月九日憶山東兄弟」、白居易「除夜寄弟妹」、韓愈『昌黎先生文集』「雑説」を通して、「Ａ読むこと」(1)ウ「必要に応じで書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること」を学んだ。さらに、授業実践Ｉでは、『徒然草』「あだし野の露きゆるときなく」を通して、自ら問いを立て、グループで解決に向けて調査、分析して考察をまとめ発表する探究学習を行い、「Ａ読むこと」(1) キ「関心を持った事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること」を学んだ。授業実践Ｉ実施後のアンケートでは、古典を読む力が向上したと答えた生徒は 83%であった。古典作品に対して、本文の口語訳に留まらず、言葉そのものに着目する視点や背景知識を踏まえて主体的に読み取ろうとする姿勢が養われてきた。本単元では、『蜻蛉日記』の日記文学としての特徴や表現等について理解を深め、自ら問いを立ててその答えを深く探る過程で、内容や解釈を自分の知見と結び付けながら、日記文学の意義や表現の巧みさ、平安時代の女性の生き方等について、考えを深めることを期待する。

６　指導観

古典探究「Ａ読むこと」(1) オ「古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること」について、文章の構成や作者と兼家との関係性などから、考えを深めさせる。また、その際に、日記ならではの表現の特徴を踏まえ、作者の視点から見た人物像の描かれ方、日記文学としての在り方などについて、現代とのつながりに気付かせる発問を教師が行い、考える機会を与える。また、『蜻蛉日記』「汁坏の水」との読み比べを行い、作者の心情を示す表現について深く理解させる。学習を通して得た知識や気付きを、生徒自身が問いを立てることにつなげるために、「日記文学」「平安時代」「現代」「表現方法」等のキーワードをいくつか設定し、キーワードを使って問いを立てさせる。また、生徒自身に問いを分類させることで、その問いを「創造的な問い」として練り上げていく過程や解決に向かう過程で思考を深めさせる。また、生徒が個人で問いを立てたり、問いの答えを探究したりする中で、適切に書籍や論文を活用させる。さらに、生徒がペアで互いの問いや考えへの助言を通して自己の考えを形成していくことで、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。学んだ成果については、オンラインプレゼンソフトを使用して任意のグループ内で発表させ、相互評価を行わせる。その後、作成させたレポートで、読みの深まりの程度を評価する。

７　研究主題との関連

本研究は、「問い」を立て、その問いを「創造的な問い」として練り上げていく過程及び解決に向かう過程において、古典の世界と現代の社会と結び付けて考えを深めることで思考力を伸ばすとともに、古典の価値を再認識し、自己の在り方生き方を見詰め直す契機となる授業を目指すものである。研究主題に迫るために、以下の手立てを行う。

(1) 「創造的な問い」を立てるための工夫

① 初読の問いの分類及び必要な視点の提示

② 書籍や論文の参照

③ 作品内のことば、表現への着目

(2) 複数で問いを練り合うための工夫

①　個人での問い立て
②　協働学習による学び合い
③　ＩＣＴ機器による情報共有
(3)　古典の世界と現代の社会とを比較して考える場の設定
①　生徒の知識や経験と結び付けて考える時間
②　現代の社会や自分に引き付けて考えたことの記述

８　単元の指導と評価の計画

(1)　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。((1)イ)	①「読むこと」において古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。((1)オ)	①古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、これまでの学習を生かして積極的に考えを形成し、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

(2)　単元の全体計画（12 時間扱い　本時７／12）

次	時	主たる学習活動	評価規準 ★記録に残す評価	評価方法
1	1 2 3 4	・初読で疑問に思ったことを問いにする。 ・『蜻蛉日記』についての文学史や藤原道綱母の生涯、時代背景などを知る。 ・音読をして古文特有のリズム・調子を味わう。 ・「うつろひたる菊」を読み、文法に即して口語訳を行う。 ・作品中の表現に着目して、言葉の持つ意味合いや作者の意図を捉えながら内容を読解する。	〔知識及び技能〕①	「行動の観察」 「記述の点検」
2	5 6	・「泔坏の水」を読み、内容を理解する。 ・作者の心情が表現されている言葉について整理し、前時までの「うつろひたる菊」と読み比べ、心情表現の違いについて理解する。 ・作者の置かれた立場や兼家との関係を、当時の平安貴族の恋愛模様を踏まえて理解する。	〔思考・判断・表現〕①	「行動の観察」
3	7 本時	・これまでの学習を通して、自分自身が疑問に思ったことを整理し、探究するための問いを数多く立てる。 ・それぞれが立てた問いを「創造的な問い」になるかどうかという視点で分類し、自分の深めたい問いをペアで発表する。更によりよい問いとなるように、ペアで議論やアドバイスをし合う。 ・探究する問いを決定し、その理由を含めてオンライン表計算ソフトに入力する。	〔思考・判断・表現〕①	「行動の観察」 「記述の分析」
	8 9 10	・前時に決定した問いについてどのような資料を使用して調査をするか考える。 ・問いに対する答えについて、便覧、関連書籍、関連論文、イ	〔主体的に学習に取り組む姿勢〕	「行動の確認」

		ンターネット等を活用して調査し、その成果・考察をオンラインプレゼンソフトにまとめる。		
	11	・前時までにまとめたオンラインプレゼンソフトを使って、サポートメンバーを含む複数人に共有し、そのグループごとに発表し、考えを広げたり深めたりする。	〔主体的に学習に取り組む姿勢〕★	「行動の分析」
	12	・発表を通して気付いた点を含め、古典作品やテキスト、論文等の記述を根拠に、自分で立てた問いに対する考えを個人でレポートにまとめて提出する。 ・オンラインアンケートフォームに振り返りを入力する。	〔思考・判断・表現〕①★	「記述の確認」 「記述の分析」

９　本時の計画

(1) 目標

これまでに学習したことを踏まえて、「創造的な問い」を作ることを通して、作品内容やその解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時は前時までの学習を踏まえ、『蜻蛉日記』の学習を通して、より深く考えたいことについて「キーワード」を基に、読みを深め探究するためにふさわしい問いを立てさせる。本授業では、その問いを「創造的な問い」と定義し、その条件を①答えが複数あること、②作品内のことば・表現への視点（作者の心情、和歌、文章の展開など）があること、③現代との比較ができるものとする。問いを立てる際には、数多くの問いを作らせることで、学習を通して抱いた違和感や疑問について、整理させる。また、オンライン表計算ソフトを活用して、個人で問いを立てながらも、クラスメイトの問いが共有できる状態とし、苦手な生徒の手掛かりとなるようにする。

問いを立てた後に、正解が一つに定まる問い（調べればすぐに答えの出る問い）と、上記の条件に該当する問いに分類させる。その際は、複数の事柄を調査し、まとめる必要があることを意識させる。その後、２～３人のペア（予め組んだサポートメンバー）で各々の問いを共有し、自己の考えを広げたり深めたりすることができるより良質な「創造的な問い」となるよう、互いにアドバイスをし合いながら言語化していく。探究学習において、核となる「問い」を立てる中で、生徒自身が主体的に古典作品の内容や表現について「創造的な問い」を立てることの必要性を実感し、切実に学ぼうとする姿勢を養いたい。また、これまでの学習内容と関連付けながら、ペアで立てた問いとその理由について自らの言葉で説明し合い、議論を行う活動を通して、より良質な問いを立てて考えを深めさせたい。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示　◆予想される生徒の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入 ５ 分	１　「創造的な問い」の必要性、定義の確認をする。 ２　本時の学習目標を確認する。	一斉	・探究学習に向けての「問い」として、調べ学習に終始せず考えを深める創造的な問いを立てることを理解させる。また、その問いの条件について確認させる。	
	これまでの学習を踏まえ、自分の考えを深めるための「創造的な問い」を立てよう。			
	３「問い」を立てるためのキーワードを確認し、これまでの学習を振り返る。		・前時までに挙げたキーワードを再度確認させる。	

	○今回の単元でのキーワードは何か。 ◆「日記文学」「平安時代」「作者」「兼家」・・・			
展開 45 分	４　「キーワード」を用いた「問い」をつくり、オンライン表計算ソフトに入力する。 ○学習の中で抱いた「違和感」や「もやもや」を基に、探究する「創造的な問い」を立てましょう。 ◆藤原道綱母は、どのような生涯だったのか。 ◆作者は、なぜ、日記文学を書き残し、またそれが現代にまで読み継がれているのか。 ◆現代に生きる自分たちが、『蜻蛉日記』（当時の日記文学）から学べることは何か。 ○立てた問いを「正解が一つに定まる問い」か、「条件に当てはまる問い」かに分類し、「条件に当てはまる問い」を赤色にしましょう。この後、ペアで探究したい問いとその理由を発表し合うので、探究したい内容やその動機を明確にしましょう。 ◆「藤原道綱母は、どのような生涯だったのか」は、正解のある問いだ。	個別	・学習を振り返りながら、疑問・違和感等を整理して多くの問いを立てさせる。 ・初読の問いを参考にできるよう、予めまとめたものを生徒に配信しておく。 ・全て「正解が一つに定まる問い」になった場合は、再度「問い」を作り、問いとして言語化できるよう促す。	
	５　個人で作成した「問い」について、これから深めたいことや理由を含めて発表し、それを踏まえて、アドバイス等を行い、よりよい問いにしていくために練り合う。 ○発表を聞いて、良かった点、「創造的な問い」にしていくために必要な点についてアドバイスをし合い、よりよい問いにしましょう。 ◆「作者は、なぜ、日記文学を書き残し、またそれが現代にまで読み継がれているのか」という問いは、「創造的な問い」だ。当時の日記の性質を調べてみよう。 ◆「現代に生きる自分たちが、『蜻蛉日記』（当時の日記文学）から学べることは何か」という問いは、「創造的な問い」だ。蜻蛉日記の他の章段も読んでみると良さそうだ。	ペア	・発表を聞く際、互いの問いをよりよくしていくためにどうすべきか考えながら発表を聞くようにさせる。感想の発表に留まらず、ペアで個人の問いを練り上げる視点を探らせる。	〔思・判・表〕① 「行動の観察」（机間指導）
	６　作成した問いの中から、探究したい問いを一つ選んで「創造的な問い」とし、選んだ理由をオンライン表計算ソフトに入力する。	個別	・探究して深めたい問いとその内容について理由を含めて入力させる。	〔思・判・表〕① 「記述の分析」（オンライン表計算ソフト）

終結 ５ 分	７　それぞれの決定した「創造的な問い」について、次回、調査し、考えをまとめることを確認する。 ８　本時の目標（「創造的な問い」を立てる）についての振り返りをオンラインアンケートフォームに入力し、送信する。	一斉	・問いの質やペア活動での考えの深まりと、次時に活かしたいことについて振り返らせる。	

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる（A）	努力を要する生徒への手立て（C）
思考・判断・表現	「読むこと」において、作者の視点から描かれた生活や心情の表現方法を踏まえ、自分の考えを広げたり深めたりしている。	「読むこと」において、作者の視点から描かれた生活や心情の表現方法を踏まえ、自分の知見や経験と結びつけて、現代と比較しながら自分の考えを広げたり深めたりすることができている。	これまでの学習で行った本文の記述から、文章の展開、作者の心情表現、兼家の様子の表現などについて、助言を加える。

(5) 準備物

① 教師：教科書、ノート、『体系古典文法』、『新国語便覧』、タブレット端末

② 生徒：教科書、ノート、『体系古典文法』、『新国語便覧』、古語辞典、タブレット端末

(6) 板書計画

『蜻蛉日記』

◎学習目標

これまでの学習を踏まえ、自分の考えを深めるための「創造的な問い」を立てよう。

○古典作品を読むとは？・・・**古典作品と自分との対話**

↓資料等をもとに、自分で考えて、理解を深めることが必要。

自分の考えを深める（学びを深める）ためには・・・

◎創造的な問いを作ろう。

※複数の事柄を調査し、まとめる必要がある。

〈条件〉

① 答え（解釈）が複数あるもの。

② 作品内のことば・表現への視点（作者の心情、和歌、文章の展開など）を持つこと。

③ 現代（自分自身）と比較して考えられるもの。

〈これからの学習〉

(1) 問いを立てる。

(2) 個人でその問いについて探究し、ペアで発表する。

(3) 自分の考えを深めるレポートを作成する。

◎単元のキーワード

「日記文学」「平安時代」「現代（自分）」「表現方法」

「男女」「苦悩」「作者」「兼家」『蜻蛉日記』

〈本日の学習〉

(1) キーワードを使って、たくさんの「問い」を立てる。（個人）

(2) 立てた問いを「正解が一つに定まる問い」か、「条件に当てはまる問い」かに分類する。（個人）

(3) 自分の問いについてペアで発表し、アドバイスをし合う。（ペア）

(4) 「創造的な問い」を一つ決定し、問いとその理由をオンライン表計算ソフトに入力する。（個人）